# 高収益への転換のカギ「品質コストマネジメント」セミナー

## － 利益を生む品質管理への変革を仮想ケースに基づき演習で学ぶ －

品質コストは、TQC および TQM の生成当初からシステムの成否を占う主要なスケールであったものの、日本ではあまり注目されてきませんでした。その背景にはわが国固有の組織風土が考えられますが、日本企業は世界に冠たる品質を実現させた一方で、低収益を余儀なくされてきました。品質コストはこの壁を打ち破り、品質の向上のみならず、品質管理を通じてきちんと利益（Return on Quality）を生み出す仕組みの構築を支援します。
本セミナーでは、わが国の組織風土に適した品質コストの活用のあり方を、事例を紹介しつつきめ細かく解説していきます。

### 対象

対象階層：トップマネジメント、品質管理・品質保証・生産管理部門の管理者の方々
・品質の維持・向上にかかる費用と、工程内の失敗や出荷後のクレームなどにかかる費用のバランスを適正化したい方
・品質トラブルによる損失や、連鎖的に発生するリスクを効率的に回避したい方

### 特徴

・品質コストの実態を把握し、効果的に管理することがいかに重要かを、とくに失敗事例を参照しながら学習していきます。
・内外の先進企業の取組事例を紹介し、わかりやすく解説します。
・品質コストの測定、分析、活用の場面で生じる様々な疑問に応えます。
・品質コストとくに失敗コストを効果的に低減するための手法について解説し、その活用方法を体験的に学習していただきます。

### カリキュラム

1 日目（9：30 ～ 17：00）　※グループ演習あり

・品質コストマネジメントはなぜ必要か
・品質コストが示唆する「品質管理に優る投資はない」
・日本企業の品質コストマネジメントの現状
・機会ロスの推定
・フィードフォワード型品質コストマネジメントの実践

### 日程・受講方法

| | | |
|---|---|---|
| 第 1 回 | 2024 年 9 月　9 日（月） | ライブ配信 |
| 第 2 回 | 2025 年 3 月 12 日（水） | ライブ配信 |

### 参加費

一般：42,350 円／会員：36,300 円　※税込み

### 指導講師

伊藤　嘉博 氏（早稲田大学商学学術院 教授）

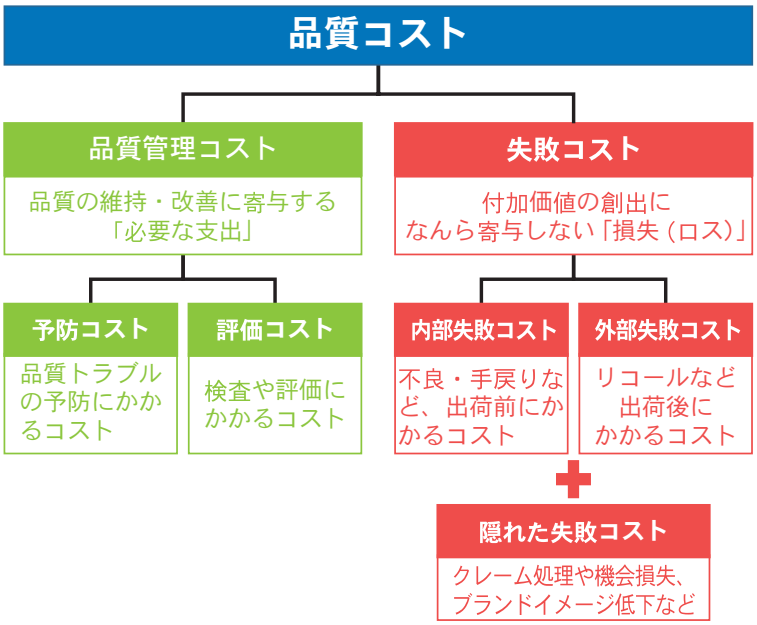
**参加者の声**

●コストの分類により明確化、細分化ができるということがわかりとても勉強になった。
●機会損失の測定方法について理解度を上げることができた。
●自社業務について、PAF 法の予防コスト・内部失敗・外部失敗に仕訳するヒントを得た。

## 品質コストとは?

品質コストとは、品質管理・品質保証に関わるコストの総称です。品質コストは、予防コスト（品質トラブルの予防にかかるコスト）・評価コスト（検査や評価にかかるコスト）・内部失敗コスト（出荷以前にかかるコスト）・外部失敗コスト（製品が顧客の手に渡った後にかかるコスト）の 4 つに大別できます。

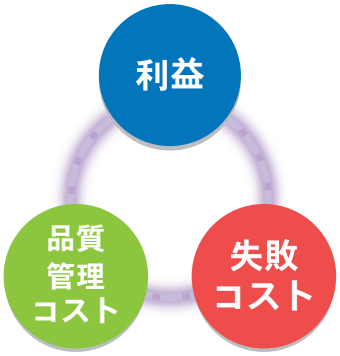
このうち、前者 2 つの予防コスト・評価コストは「品質管理コスト」として品質の維持・改善に寄与する「必要な支出」であるのに対し、後者 2 つの内部失敗コスト・外部失敗コストは「失敗コスト」として付加価値の創出になんら寄与しない「損失（ロス）」とみなされます。さらに、この " 見える " 失敗コストのほか、その失敗から引き起こされるクレーム処理や機会損失、計画遅延、ブランドイメージ低下など、" 隠れた " 失敗コストも発生します。




## 品質管理コストと失敗コストのバランス

事前に品質管理コストをしっかりとかけた活動をすれば、その分、失敗コストを削減することは可能ですが、それが過剰になれば今度は得られるはずの利益を圧迫し始めます。しかし、逆にそこにかかる費用を惜しみ、無理に品質管理コストを圧縮すれば、今度は思わぬトラブル=損失を引き起こすことになります。日本企業は品質を重視し、造り込む文化を持っている一方、過剰なコストダウンに走った結果、重大な品質問題を発生させ、リコール等の莫大な損失や企業の存続に関わるほどのイメージダウンを引き起こしてきた一面もあります。

そこで問題となるのが、『必要なコストと避けたい損失をどのように捉え、バランスを取っていくか』という点であり、さらに言えば『そのバランス取りの中で、どう利益を最大化するか』という点です。もし、それらのどちらかに極端に振り過ぎても、結局はデメリットが発生するため、最適な形で利益の拡大につなげることはできなくなります。




## 品質コストを " 投資 " と考え、適正化する

この時、助けになる考え方が「品質にかかるコストを " 投資 " とみなす」というアプローチです。投資は利益を得るために行うものですが、投資額は大きすぎても、小さすぎても、適正で効率のよいものとはなりません。少なすぎる投資では十分な利益を得られません。しかし、いたずらに投資額を増やしたところで単純に利益が増えるわけでもありません。少ない投資で大きな利益を得るためには「何に、どのくらい投資すれば効率が良いのか」をきちんと見極める必要があります。それは品質コストも同じで、品質に関して、何に、どのくらいのコストを投下することで、損失をどれだけ最小化し、また利益を最大化できるか、という視点で考えていく必要があります。いわば、品質にかかるコストを結果論として見るのではなく、能動的・意識的にマネジメントすることで、適正な利益（Return on Quality）を得るのです。

本セミナーでは、そのための考え方や手法についてご紹介していきます。